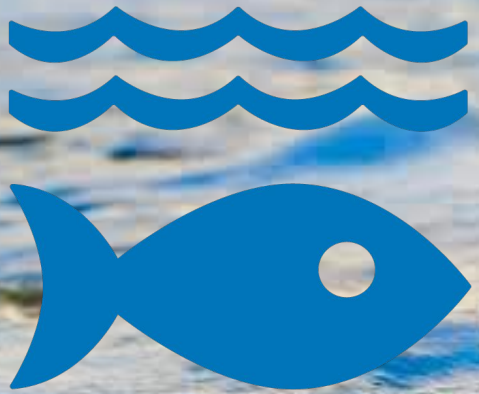
海洋プラスチック問題について

長野県上田染谷丘高校1年　1組　　氏名　湯本瑛仁

この課題に関わるSDGsの番号

14 海の豊かさを守ろう



テーマ設定の理由

・長野県には海がないので、海についてふれてみたかったから。

・中学生のとき、英語の授業で海洋問題について少しふれて、興味が今もあるから。

・海の生き物が少なくなり、さかなくんの出番がなくなるかもしれないから。

現状

人間がほとんど住んでいない南極や北極でもマイクロプラスチックが発見されて いるほど、海洋プラスチックによる海洋汚染は地球規模で広がっています。合計 で1億5,000万トンもの海洋プラスチックが海を漂い、少なくとも年間800万トン（旅客機 5万機相当の重さ）が新たに海に流出しているとも言われていて、急速な対応が求められています。

🏅ゴミの発生量ランキング🏅

1位、中国 353万トン/年

2位、インドネシア 129万トン/年

3位、フィリピン 75万トン/年

4位、ベトナム 73万トン/年

5位、スリランカ 64万トン/年

※アジア地域が多いことがわかります。

課題

プラスチックが大量生産・大量消費されていく中で、大きく2つの**課題**が表面化してきた。**プラスチック**の原料として「石油」を大量に消費し、焼却処分をすると二酸化炭素が排出され、地球温暖化を助長してしまうという点。そして、廃棄された**プラスチック**が海洋マイクロ**プラスチック**などとなって環境を汚染しているという点があります。

また、**海**で暮らす生き物の住処が減ったり、有害物質の影響を受けた海産物が人間の身体に入ったりするなど、多方面に影響を及ぼします。

解決策

海洋プラスチック問題解決のためには、リデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、 リサイクル（Recycle）の3Rが有効です。意図せず**海洋**に流れ込んでしまう**プラスチック**も一定数あるため、この3Rによって少しでも全体の使用量を抑えることが重要です。

また、自分たちができることとして、マイ袋を持参する、マイボトルを持参する、プラスチック製のストローの使用を控える、過剰な包装は断るなどを心がけることで、レジ袋を削減したり、ペットボトルの削減にもつながります。【貰わない】・【使わない】がカギとなるでしょう。

個人的には、使い捨て用プラスチック袋を販売している時点でもうよくないと

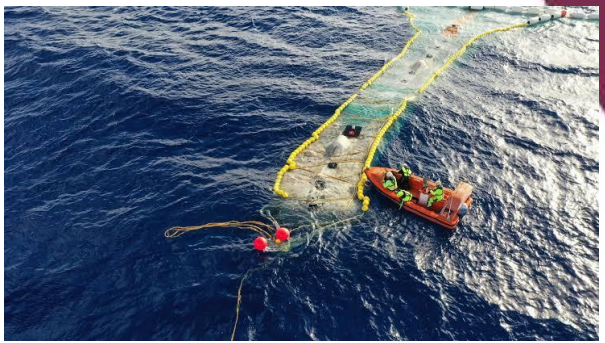
思うんですけど.....

こんな取り組みもしています😎！

ダ生まれ、25歳のボイヤン・スラットさんはオーシャン・クリーン　　アッ
案を作った人です。　　この方法は、ゴミが最もある
みベルトで、全長　　約600mの浮きをU字型に設置し、浮きの下
ス　　クリーンで、風と潮の流れによって内側にゴミを集めるという方

魚などの海洋生物はスクリーンのしたをすり抜けるので、この
の悪影響がなくて、推奨されているそうです。

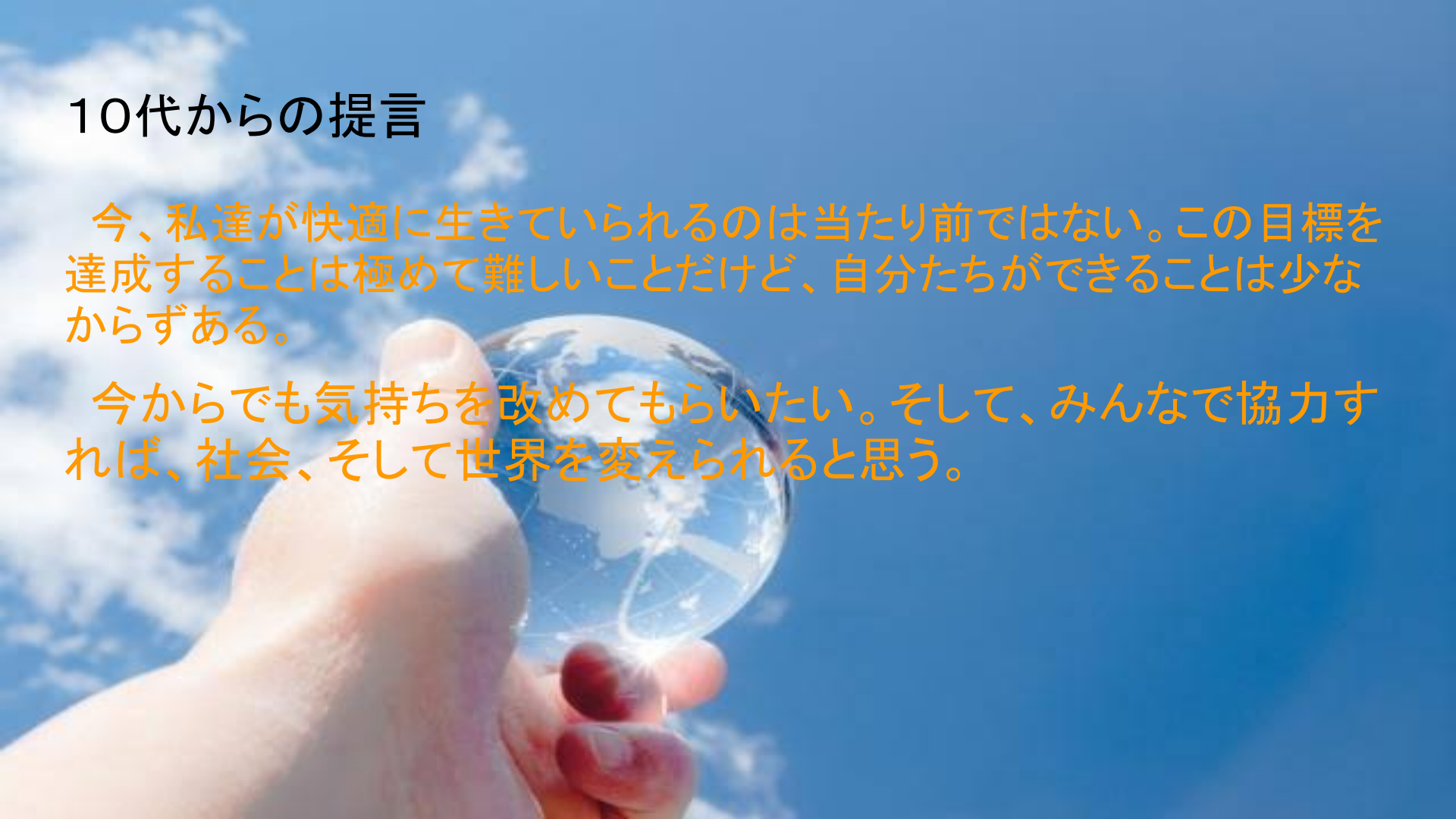
とても賢い方法で、初めて知ったときは、驚ました！



10代からの提言

　今、私達が快適に生きていられるのは当たり前ではない。この目標を達成することは極めて難しいことだけど、自分たちができることは少なからずある。

　今からでも気持ちを改めてもらいたい。そして、みんなで協力すれば、社会、そして世界を変えられると思う。



感想

　SDGsに関連して、今回は海洋プラスチック問題について調べてみました。思った以上に問題が深刻で、海洋生物や人間にまで害が及んでいることを知り、一刻も早くこの問題を解決しなければいけないと思いました。

　また、この問題を解決するには小さな努力の積み重ねや、世界が一体となって協力しなきゃ解決できないと思います。

　今後も、海洋プラスチック問題を意識した生活を送っていきたいです。